



子どもを安心して産み、育てられる社会の実現を目指して

"子どもをのびのび育むまちづくり"



前列向かって左側から：長谷川夏生さん（映画『うまれる』実行委員会）／加茂友香さん（からだと心をあたためよう会）／横内公明・荏崎市長
松本恵子さん（NPO法人子育て支援センター ちびっこはうす）／畑野美紀さん（3ヶ月の子どものママ）
後列向かって左側から：平賀友子さん（支援センター・サポート）／神原純美さん（子育てサークル・ピーターラビット）／小林摩耶さん（絵本の会）
西 倫子さん（整体講師）／清水真理子さん（からだと心をあたためよう会）／八巻若奈さん（子育てサークル・いたずラッコ）



神原純美さん

市長：皆さん、こんにちは。本日はお忙しいなか、まちづくり懇談会にご参加いただき、誠にありがとうございます。おかげさまでオープン以来、当初の予想を上回る多くの皆さんにご利用いただき、あらためて感謝申し上げます。本日は、日ごろ、当センターをご利用いただいている、子育て世代の皆さんにお集まりいただき、施設を利用しての感想や、子どもを安心して産み、育てられる社会の推進に向けて、皆さんがどのような支援策を望んでいるかをお伺いしたいと思います。

9月26日（水）市民交流センター「ニコリ」内、子育て支援センターで、子どもをのびのび育むまちづくりの推進に向け、子育て世代の皆さんがどのような支援策を望んでいるかを話し合いました。

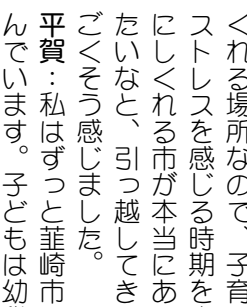


長谷川夏生さん

市：子どもを育てながら、3人の子どもを育てています。色々な話が聞えればいいなと思います、本日は楽しみにしながら参加させていただきました。八巻：子育てサークル・いたずラッコのリーダーをしています。子どもは2歳6カ月の息子一人です。県外からこちらに移り住んで、色々なことがわからなかったため、サークルに入りました。センターをいつも利用しているのですが、今日は色々な話ができて、いいなと思っています。



八巻若奈さん



加茂友香さん

加茂：昨年、千葉から引っ越してきました。引っ越すにあたって、千葉にはこういう施設がありませんでしたし、夫の職場は北杜市なんです。ニコリに子育て支援センターができるということで、子育てをするのには荏崎市が環境的にもいいよね、ということで荏崎に決めました。

市長：ありがとうございます。（笑）
加茂：実際、転動したばかりのころは友達もいませんでしたが、ここは、友達づくりの場にもなりましたし、先生方もしんどいときに助けてくれる場所なので、子育てのストレスを感じる時期を大事にしてくれる市が本当にありがたいなと、引っ越してきてすごくそう感じました。

平賀：私はずっと荏崎市に住んでいます。子どもは幼稚園



第3回まちづくり 懇談会



小林摩耶さん

に通っているの、空いた時間に他のおかあさんのお手伝いができればいいなと思い、こちらでサポーターとして活動しています。

小林：子どもは2人です。子どもが生まれる少し前に、北杜市から韮崎市に引っ越してきました。韮崎に住んでみて思うことは、子育て支援センターをつくったこともそうですが、行政がとても頑張っているなという印象です。

畑野：1年前に、甲斐市から主人の実家のある大草に移り住んで、2人の子育てをしています。私自身仕事を持っています。子どもは産休中なんです、その間、二コリで子育てをしながら楽しみたいかなと思っています。普段、市



平賀友子さん



清水真理子さん

長と話す機会がないので、今日は市長と話してみたいなと思い、参加しました。

清水：私は北杜市在住です。子どもは1人で、ここで活動をしているサークルに参加しています。地域を超えて、気の合う仲間と子育てをできることは、とてもありがたいなと思います。

西：今日は甲府市からきました。子どもは1人と、いまおなかの中に6カ月の赤ちゃんがいます。3年前に山梨県に嫁いできて、たまたま同じ妊婦さんで、親しくなった韮崎市在住の友人に、こちらを紹介していただきました。先生方とも親しくなると、3歳になる子どもがここにくるのをとても楽しみにしています



畑野美紀さん



松本恵子さん

し、私もここでイベントをさせてもらったり、参加したりして、すごく楽しい時間を過ごしています。子どもも今日は韮崎にいくの？って、韮崎の名前をすっかり覚えてしまいました。(笑)

松本：ちびっこはうすの松本です。こちらの施設の管理運営をしています、いつも皆さんにご利用いただき、誠にありがとうございます。市長と、実際に子育て中の皆さんとの対話の機会を設けていただいたことは、とても貴重なことだと思っています。

市長：当センターは、指定管理者として、ちびっこはうすに管理運営をお願いし、まさに子育ての窓口としての視点から、様々な取り組みを行う



西 倫子さん

ているわけですが、月3,000人以上の皆さんにご利用していただいているのと、市外の方の利用が多いのには本当に驚いています。

センターを利用して感じたことは…

長谷川：今年の3月に、実行委員長として『うまれる』という映画の上映会を開催させていただきました。いろいろな方が、個人的にどのようなしたら良いのか分からない、と、とりあえずセンターに相談してみたいところ、先生方が二つ返事で、すぐに一緒にやろうと言ってきて、本当にありがたかったです。それで、センター協力のもと、おかあさん方8人が集まって、自主上映会ができ、400人以上のお客さんが集まってくれたことも、すごうれしかったです。

また、韮崎市も協力してくれて、無料上映会になったことも、ママたちからは、韮崎市ってすごいねという感想もいただきました。個人的にこうしたいということをセンターがバックアップしてくれるので、情報発信の際にも本当に心強いと思いました。

市長：これまでの韮崎には、子育て中のおかあさんたちが

集まる場所がなかなかなくて、そういった意味からも、この場ができて楽になったということはありますかね。

松本：たくさんの方が集まってくれるので、ネットワークが広がりました。

八巻：いままでは、こうした広い施設がなかったで、児童館を中心に活動していましたが、いまはセンターのスタッフの皆さんが子育てサークルのサポートもしてくれますし、公園で予定していた集まりが突然の雨になっても、二コリを利用することが可能になったりと、サークルの活動の幅がとても広がりました。

加茂：私は助産師の資格を持っています。いまは育児中で実際の仕事はしていませんが、こちらで『助産師とお話しよう会』という企画をしてくれているおかげで、1ヶ月に1度、助産師として仕事をさせていただいています。あと、おかあさんたちを見てみると、友だちがいないといった例も多くて、そういう人たちを集めて会話ができるというのは、専門家の立場から非常にいいことだと思っています。二コリにすればどうにかなるという場を先生たちがつくっていますし、ここはお



かあさんたちを助けているの
ではないかと思っています。

市長：まだ一人で、ここにこ
られない人もたくさんいると
思います。市でも広報とかで
PRはしていますが、性格的
に引込み思案な方もいたり
して、そういう人たちにもど
うしたら利用してもらえるか
が、今後の課題ですね。

加茂：二ユースでも自殺のこ
とが報じられたり。また、お
かあさんたちのストレスとい
うのもあるし、子どもの悲し
い二ユースもあるし。荏崎市
はどうなのかわかりません
が、ここができたことで、ず
いぶん変わるのではないかと
思います。

市長：悩んでいる人には、こ
こにどんなきていただい
て、悩みを相談できるような
雰囲気づくりを、これからも
していきたいと思っています。

神原：昔、市営のプールに子
ども用のプールがあったと思
います。ここ何年か閉鎖状態
で、子育て支援センターはと
てもいい施設なんですけど、唯
一、子どもの水遊びができる
施設がないのが残念です。浅
いプールは危険がなくて、子
どもをのびのび育てられたの
で、市営プールがなくなっ
てしまったのは残念です。

市長：市営総合運動場は、体
育館も含めて、長期計画のな
かで整備を検討しなくてはな
らないんですが、今後、着手
するときには総合的に検討し
ていきます。それまでは、釜
無川河川公園に噴水や流れる
水路など、小さな子どもでも
安心な水遊び場がありますの
で、来年の夏ぐらいには利用
を検討してみます。

小林：私の両親が50代・60代
なんですけど、そういった人た
ちもときどきセンターに遊び
にきています。そういう人た
ちを見ていると、お孫さんた
ちを見る目がすごく優しく
て、とても微笑ましく思いま
す。おじいちゃん、おばあち
ゃんが孫たちと触れ合う機会
をもっと増やしてあげること
で、自分たちが親のときにで
きなかつた子育てをあらため
てできるという点で、素晴ら
しい環境だと思っています。もし
機会があれば、ぜひ何か計画
して欲しいと思います。

市長：いまも色々なイベント
は計画していますよね。
松本：色々企画しています
が、いまのところそういうイ
ベントは実施していません。
貴重など意見をいただいたの
で、さっそく採り入れられる
ように検討してみます。

西：3年前に山梨にきて、や
はりお友だちがいないのはす
ごく寂しくて、実家に帰ると
弟の家族とよく話をしたんで
すが、弟家族の住む京都の宇
治市にもこういう施設が最近
できたそうで、甲府にもあれ
ばいいのになと思っていた矢
先に、ここを紹介していただ
いて、よく利用させていただ
くようになりました。

清水：先ほど市長も言ってい
たように、市外の人の利用が
多いということですが、私の
両親も保育園など子どもと遊
ぶ場はあるんですが、なぜか
こっちに遊びにくるようにな
りました。お話を聞きながら
なぜって考えていたんです
が、サークルがあることはも
ちろんですが、スタッフの皆
さんが本当に愛情深くて、一
生懸命で、私も職場として働
きたいなと思うくらい素晴
らしいところだからかなと思
いました。

市長：スタッフは何人くらい
いるの？
松本：常勤が4名、非常勤が
4名です。
市長：平賀さんのように、お
手伝いしてくれる人もいるわ
けですよね。
松本：そうですね。サポー
ターの皆さんも20名くらい

て、本当に助かっています。
市内にそういう思いの方がた
くさんいるってことは、すご
くありがたいことですね。
市長：そう、それはありがた
いよね。

畑野：いまはサークルがたく
さんあるんですけど、どこで
も1人で飛び込む勇気はな
くて、やはりおかあさんたち
のコミュニケーションがあつて、そこ
で紹介していただいてはじめ
てサークルに入れるというの
もあるんですね。この施設
はとても自由で、1人で、い
つ、だれがきても楽しめる
し、一緒にいるおかあさんた
ちからの情報を得ることによ
って、サークルに飛び込みや
すいというのがあります。
市長：スタッフがいいという
ことですね。(笑)
松本：ありがとうございま
す。(笑)

子育て支援で 望むことは…

市長：施設全体に関するこ
とで、何かご意見等ありますか。
小林：駐車場が4時間まで無
料となっていますが、もう少し
延ばしていただけたらとうれ
しいです。午前中にセンター
でちっちゃい子どもと遊ん
で、お昼を食べてから図書館

にいったら、2時くらいにお姉
ちゃんを幼稚園に迎えにい
つて、またセンターで遊ぶとい
うように、まるでローテーシ
ョンのように丸一日をここで
過ごすことができるので、も
う少し時間を延ばしていただ
けたらと思います。

市長：ここを建設する際に、
駐車場のことも検討したわけ
ですが。あまり長くして、施
設利用者以外の人がかりが利
用するようになってもいいけ
ませんし、ここを利用する本
当に必要な方の利便を考えると、
まあ4時間くらいが適
当かなと判断したわけです。

加茂：スタンプを押してもら
って、施設を利用した人しか
4時間無料にならない方法も
あると思います。駐車場がい
っぱいで、雨の日に屋上しか
空いていない場合は結構大変
で、私もひよっとしたら通勤
の人も置いているのかなと感
じたことがあります。本
当に必要な人が利用できるよ
うに変えていただけたらと思
います。とくに子どもを2人連
れているときは大変でした。
市長：ご意見を参考にさせて
いただきます。
八巻：全然違う話でも大丈夫
でしょうか。先ほど、神原さ
んもおっしゃっていました



第3回まちづくり懇談会

が、ここは本当に素晴らしい施設ですが、外遊びということも子どもには重要な要素として、蕪崎市でいま公園というと中央公園だと思っていますが、御勅使公園やドラゴンパークと比べると、やはり不便だなと感じてしまっています。一番気になるのがトイレに関して、清潔なのはもちろんですが、おむつ替えのベツトが公園にもあったらいいなと思います。まずは、トイレをきれいにしたいですね。それと、ちっちゃい子どもには遊具もちょっと危ない感じがします。公園を新たに作ることは大変ですが、いまあるところの安全確保をしていただければ十分に利用できますので、そうすれば、もっともっと中央公園も遊びやすい公園になると思います。

市長：きれいにすることは当然ですが、もっと数を増やすとかは大丈夫ですか。

八巻：トイレのことは子育てのなかでも重要なことでして、子ども用のトイレを増設してけると助かります。

清水：センターにも、時間になるとパンを売りにきてくれますが、食事でもう少しバリエーションが欲しいと思います。それと、急におむつが必

要といった場合に、子ども用の品物が置いてあるお店があると助かります。

市長：コンビニの誘致も計画したんですが、なかなか入り手がなかったのが実情です。

清水：例えば、色々な問題もあると思いますが、時間のあらかあさんたちで運営して、おかあさんたちの意見も採り入れて、自分たちが気に入ったもの、必要なものだけをちよつとしたスペースで販売するという方法もあると思います。空いているスペースをそういうことで活用できないでしょうか。

長谷川：数年、蕪崎に住んでみて、まちがシャッター街になつてしまっているのが残念です。子どもたちには地元を愛してもらいたいというのがあつて、地域の人たちとどうつながっていくかがとても重要なことだと思っています。家族ではなくて、地域の人たちとどんな仕事をしていて、どのように生活しているかというところが触れさせたいという思いがあります。本町通りには色々なお店があると思いますが、子育てと商業でコラボしながら、みんなで一緒にまちづくりをしていくというのが、私が勝手に思っていること

です。蕪崎市には一生懸命頑張っている人がたくさんいるのに、子どもたちが知らないのもったいないことだと思っています。センターのアウトリーチ事業として、何かやっていくこともいいんじゃないでしょうか。

市長：シャッター街のことは私も気にしていて、昨年、まちなかにのれんを掲げたりもしました。のれんが店の売り上げを飛躍的に向上させることはできませんが、雰囲気は良くなったと思います。

神原：うちの子どもは、あののれんをすごく喜んでいました。車で通ったり、通学るときに通ったりして、あののれんの字が読めなかったとか、あれは何屋さんとか、とても興味を持ったので、一つずつ教えていけたら、いまではほとんどのお店が分かるようになります。おかあさんの時代にはこういうお店があつたのよ、というように会話も弾みましたし、のれんをつけたことは、すごくいいことだと思いました。

市長：ありがとつございませう。のれんの事業に取り組んだ甲斐がありました。そういうふうな、子どもたちの学びの場にもなっていたんですね。

畑野：大草に住んでいます。子どもが少なくなくて、私の子どもが入学するときには、近所に集団登校する家が1軒しかないんですね。地域に子どもがいないと防犯上も危険ですし、これから子どもを産む人も含めて、子どもがもっと蕪崎市に住む方策を考えて欲しいなと思っています。

市長：蕪崎市を含めて、少子化は全国的な課題です。どうか皆さんも、蕪崎市と一緒に宣伝してください。

畑野：武田の里すこやか赤ちゃん出産奨励祝い金という制度が以前はありましたが、そういう方策も考える必要があるんじゃないでしょうか。

市長：子育て環境の充実はとても重要であり、どちらかと言えば、重点的に予算配分をしています。財政が厳しいのも事実です。

長谷川：お金もとても大切ですが、やればやるほどお金はかかるわけですし、その意味からも、予防するということがとても重要なことだと思っています。子どもが病気になるないためにどうしたらいいか、認知症にならないためにはどうするかといったことを考えていかないとキリがないと思います。蕪崎市にはこれ

までにも色々と尽力していただいて、感謝しています。

市長：市役所には保健課もあつて、予防のための事業にも積極的に取り組んでいます。また、子育て環境や教育環境の充実には鋭意努めておりますので、ご理解をお願いします。

松本：最後に、松本さんから今日の感想をお聞かせください。松本：今日はありがとつございしました。普段、皆さんとセンターで話すのとは違って、とてもいい対話ができたと感じています。

市長：今日は、貴重なご意見、ご感想をいただき、誠にありがとつございました。皆さんからいただいたご意見は、今後の子育て政策の参考とさせていただきます。



横内公明蕪崎市長

*まちづくり懇談会での要旨を掲載しています。より詳細な内容はホームページで公開していますのでご覧ください。

<http://www.city.wakasaki.lg.jp/art1114>